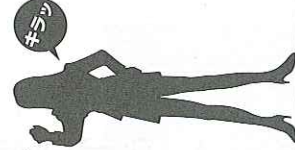




今輝いている

女性



WOMAN

(有)彩聖 専務

藤井ひとみさん

福山市新湊町6-15-22 TEL0120-594-548
http://www.548-saisei.co.jp

漠然とした墓への思いを 丁寧な打ち合わせで実現

「未永く残るように」と願う人には、吸水性の低い石がお薦めだとか。また家族に縁

建立の際は、住宅さながらに立ち会いも薦めている。常に工事の様子は記録しており、足を運べない人には写真での報告を欠かさない。「最近では生前墓の需要も多く、墓石に刻む一文字で人生を表現する人もいらつしやるが、同じ要望は二つとない。初心を忘れず、お客様の言葉に耳を傾けることを大切にしている」

着工前の打ち合わせは入念に行う。「建立済みの墓を動かす場合でも、二―三回は会って細かい点を確認する。移動といっても『もことお参りしやすい墓にしたり』『足元の段を無くしたい』など、それぞれの思いがあるはず。工事の後で後悔がないよう細心の注意を払う。

顧客の要望を丁寧に聞き取り、それぞれの家族にふさわしい墓づくりを実現している。「普段の暮らしの中で、墓のことを考える機会がないのは当然のこと。それでも、墓に対して漠然とした理想を抱いている人は多い。ご本人も気づいていない思いを、形にして提案したい」

著／黒川博行 KADOKAWA/1,300円(本体価格)

オススメの本

for Ladies
KETBUNSHA

BOOK

Selection
協力/啓文社

「破門」



の深い土地の石材を選ぶ人もおり、オーダーメイドの特長を最大限活用している。

創業一七年。扱う墓のほとんどが受注生産という。一四年前に夫である藤井和幸社長に頼まれたのがきっかけで仕事を始め、今では図面作成を一手に引き受ける。「まさか墓のデザインに関わるとは思っていなかった。お客様からの喜びの聲が励み」

六年前に一般財団法人日本石材産業協会・墓石デザイナー二級の資格を取得し、藤井社長が主に施工を担当する。「一〇〇年後に残る仕事」を任される喜びを、社員と共に実感する日々を過ごしている。



工事の様子を写真で報告する

6度目の候補でついに、黒川博行さんが直木賞を受賞しました。「読み物として一番面白い。作品の質を落とさずに書き続けたことに敬意を表したい」と選考委員・伊集院静さんも絶賛。レベルの高い作品を発表し続けたたまものといえるでしょう。

受賞作は、建設コンサルタンの二宮と暴力団組員の桑原を主人公とした「疫病神」シリーズの5作目。暴力団対策法が施行され「食えない」時代の中、組員や詐欺師が悪知恵や暴力でしのぎを削るハードボイルド小説です。魅力はエンターテインメントでありながら、しっかりと取材をしているところ。そしてシリアスな物語に巧みに織り込まれた大阪弁。デビュー当時、標準語での執筆を勧められたが「自分の血肉にならない言葉を書くのは無理」と断ったとか。気に入っていただけだから既刊作品もぜひどうぞ。(啓文社 児玉憲宗)